



「やさしさ」を抱きしめよう

第133号

平成28年7月発行

編集・発行

社会福祉法人

松野町社会福祉協議会

〒798-2101

北宇和郡松野町大字松丸1661-13

TEL (0895) 42-0794

FAX (0895) 20-5311

まつの社協だより



手をつなごう！
心をつなごう！
赤十字 手つなぎボランティア

松野東小学校と松野町日赤奉仕団のみなさんが、通学路の清掃活動をしました。みんなで協力して、ゴミや落ち葉を拾って、毎日登下校している通学路がきれいになりました。

ボランティア活動の後、学校の裏庭で野外炊さんやゲーム大会をしました。

この活動を通して、地域を大切にする気持ちや自主性や協力することの重要性を感じていました。

みんな笑顔でおしゃべりしながら交流を深め、心をつなぐ活動となりました。



おいしいカレーのために
がんばるぞ！



事業報告 決算報告

平成27年度の事業報告ならびに収支決算について、主な内容を報告します。

【 法人運営事業 】

○会議・各種大会の開催

敬老式・戦没者追悼式の開催 少年の日を祝う会への助成

○社協会費募集結果 総件数 1,204件 会費金額 1,240,000円

○松野町老人クラブ連合会・身体障害者福祉協議会・遺族会の事務局として支援

○日赤奉仕団の支援(会議・ボランティア等の支援) 母子寡婦福祉協議会(事業費支援)

○日本赤十字社募金 社資募金額実績 590,955円

【 地域福祉推進事業 】

○ボランティア活動の支援

施設や団体等の要望により、ボランティアの仲介を行い、活動の拡張を図った。
福祉ボランティアグループ総会開催、研修実施。朗読ボランティア「虹」の活動支援。
給食サービス(年24回)福祉教育の一環で小学生が弁当に添えるメッセージを作成。

○福祉教育の取り組み

ふだんのくらしをしあわせにするという視点で福祉を身近に感じ、みなとともに幸せに暮らしていくために必要なことや出来る事を考えるきっかけづくりとして学校・福祉施設と協働し取り組んだ。

○地域福祉活動計画の策定に向けた基盤整備

地域の方々や各小中学校の協力により、地域福祉活動計画策定に向けたアンケート調査を実施。

○生活困窮者自立支援事業

県からの受託により「くらしの相談支援室」を開設。多様で複合的な課題の解決に向け、総合的な相談を受け付けた。相談者 18名 年間相談件数 128回

○『福祉のつどい』の開催

福祉問題をより身近に感じ、福祉に関する理解と関心を高めることを目的とし、理学療法士による「健康」をテーマに子どもから大人まで地域の様々な人が参加できるよう足育講演会とイベントを行った。参加者約100名

○ふれあい・いきいきサロンの支援

情報交換、ふれあい、心身の健康づくりや生きがいづくりを目的とした住民主体の活動を支援した。(町内6グループ)

また介護者自身のリフレッシュ、情報交換の場として介護者サロンを実施した。

○生きがい活動支援通所事業の実施

おおむね65歳以上の方を対象に、介護予防と自立的な生活が送れるよう、社会参加を推進し、健康講座や趣味の創作活動を支援した。(町内6グループ、参加者70名)

○子育て支援への取り組み

子育て支援センター・日赤奉仕団と協働し、異世代交流を通じ防災・減災の知恵を学びあい、互いの世代への理解を深めた。

○心配ごと相談事業 実施回数 年間12回(内、弁護士相談2回/年) 相談件数6件

○成年後見人の実施 法定後見人として、被後見人の財産管理と身上監護を実施した。

○生活福祉資金貸付事業(県社協受託) 貸付実績 2件 180,000円

○小口資金貸付事業 貸付実績 4件 54,080円

【 在宅福祉サービスの推進事業 ～介護保険事業～ 】

○居宅介護支援事業

利用者のケアプランの作成や相談支援活動を行い、利用者が健全で安らかな在宅生活を送れるよう、また、家族の介護負担の軽減が図れるよう努めた。プラン作成件数延1,419件

○訪問介護事業

生活援助や身体介護を行い日常生活動作の改善や、生活の質を高める介護に努めた。

○訪問入浴事業

移動入浴車にて、寝たきりの高齢者の身体機能回復や清潔を保ち、在宅福祉向上に努めた。

【 共同募金配分金事業 】

○平成27年度の募金実績 一般募金821,179円 歳末たすけあい322,254円
 ○皆様からの温かい募金を財源に、下記のとおり活用させて頂きました。総事業費1,044,891円
 専門業者による遊具の点検と補修、ベンチの設置。 285,120円
 母子父子家庭の児童・幼児を対象に、クリスマスプレゼントを贈り、見守りと健やかな成長を願った。 94,809円
 地域福祉活動計画における住民アンケート調査の実施、サロンやボランティア活動における助成。 338,962円
 歳末たすけあい運動として、民生児童委員の協力により、町内外211名を対象に、見守りを兼ね訪問活動を実施。
 326,000円

中央診療所と虹の森公園前
バス停にベンチを2台設置 ▶



【 まごころ銀行運営事業 】

○町民の方々の善意の寄付金を受付管理し、その健全な管理運営を行なうとともに、寄付を財源とした公募による団体助成と社協での活用を図った。

助成状況(公募)

27年度の寄付受付状況

寄付目的	件数	金額(円)	割合(金額比%)
地域福祉事業へ	16	522,000	44%
介護保険事業へ	8	230,000	19%
法人へ一任	11	420,000	35%
その他	1	20,000	2%
合計	36	1,192,000	100%

No	事業名	助成団体名	助成額(円)
1	松野の子供の健康を守る会	松野町中学校PTA	189,000

社協事業での活用

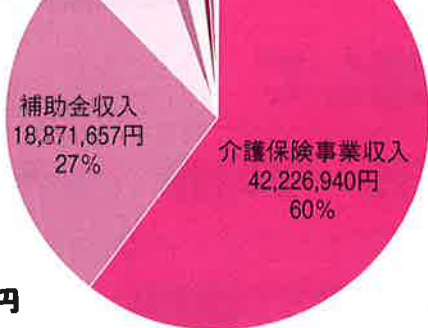
No	事業名	内容	活用額(円)
1	法人運営事業	事務費、広報費など	348,000
2	在宅福祉サービス事業	活動事務費など	252,000
合計			600,000

障害者福祉サービス事業 658,260円
 寄附金収入 1,192,000円
 会費収入 1,240,000円
 受託金収入 4,876,237円
 事業収入 493,850円
 貸付事業等収入 111,080円
 その他収入 89,169円
 利息収入 2,399円

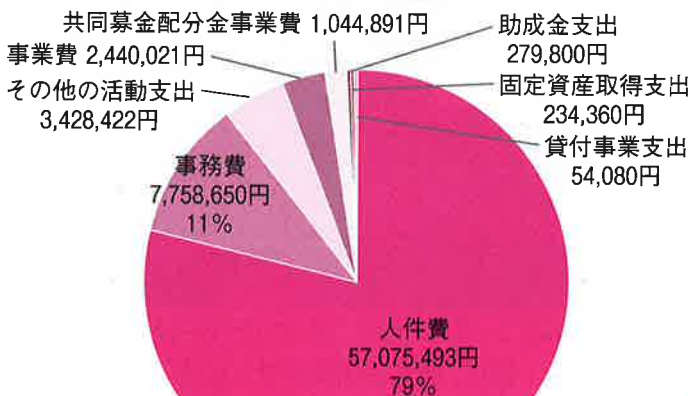
財産目録

平成28年3月31日現在

一般会計
収支決算



収入合計
69,761,592円



支出合計
72,315,717円

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	19,909,655	【流動負債】	3,137,962
現金預金	10,550,442	事業未払金	3,120,556
事業未収金	9,322,603	職員預り金	17,406
前払金	16,410		
仮払金	20,200		
【固定資産】	77,027,550	【固定負債】	44,903,382
(1)基本財産	1,000,000	退職給付引当金	44,903,382
(2)その他の固定資産	76,027,550		
車輦運搬具	704,791		
器具及び備品	2,752,153		
ソフトウェア	573,913		
退職手当積立基金預け金	39,765,540		
県退職手当積立基金預け金	5,137,842		
まごころ銀行積立資産	17,671,405		
地域福祉事業積立資産	4,267,767		
介護保険事業積立資産	4,965,409		
小口資金貸付金	180,000		
長期前払費用	8,730		
資産合計 ①	96,937,205	負債合計 ②	48,041,344
		差引純資産 ①-②	48,895,861

誰もが住みやすいまちを考えよう!



福祉の
種まき

松野中学校 福祉学習

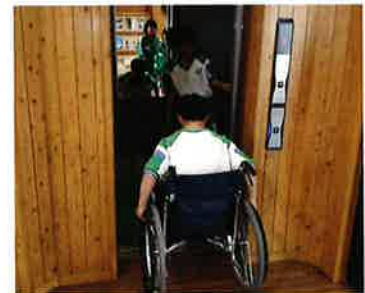
2年生のみなさんが、総合的な学習の時間で「ふくし」について学びました。実際に町に出かけて、車いすや高齢者疑似体験をすることで、町の中にある課題に気づき、住みやすいまちづくりに向けて、地域に暮らす一人としてできることは何かを考えました。

誰もが住みやすいまちを想像し、「自動販売機を誰でも使いやすいものに変える、値段表示を大きくする、必要に応じて高さの変わる車いすを作る、高齢者や障がい者の方の生活を理解する、色々な人の立場になって考える、助け合うこと、ボランティア活動、十分な資金」などが必要だと感じていました。



また、自分たちができることとして、「困っている人がいたら誰かがしてくれるだろうと思わずに自分から行動する、みんなに呼びかけをする、コミュニケーションをとる」など一人ひとりが行動宣言をしました。

生活するなかで障壁となっていることは、町の中や建物などにあるだけでなく、高齢者や障がい者の方に対する理解のなさや無関心、偏見や差別など私たちの心の中に大きな壁となって存在しています。行動宣言を実践することで、町の中や心の中にある壁が確実に取り除かれていくと思います。



日本一幸せな集落を目指して



福祉ボランティアグループ研修



松野町福祉ボランティアグループでは、会員同士の交流と活動の向上のため、毎年度研修を実施しています。

今年度は、高知県津野町「森の巣箱」を見学し、代表の大崎登さんより取組みについて伺いました。津野町の床鍋集落にある森の巣箱は、廃校を利用し、宿泊施設、集落コンビニ、居酒屋、交流拠点として地域内外から人が集まる集落再生の取組みをされています。この交流人口の増加が集落の活性化につながったそうです。



さらに、住民が幸せに暮らせる地域づくりとして、安心安全の取組みのための「お守りカード」を全戸設置し、互いに助け、助けられる関係ができているそうです。森の巣箱は、住民みんなの意思決定と協働により成り立っており、このことが持続可能な地域社会を創り出していることを学びました。